

# 魔法の種 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名:高見 朋宏 所属:岐阜県立岐阜希望が丘特別支援学校 記録日:平成29年2月25日

キーワード: 見通し, 自己肯定感, 動画・写真

## 【対象児の情報】

○学年 中学部 2 年男子

○障がい名 病気後遺症による肢体不自由 知的障がい

○障がいと困難の内容

- ・活動内容に見通しがもてないと、自分の世界に入ってしまうことや寝てしまうこともあり、授業に気持ちを向けることが難しい。
- ・周りに目を向けることが難しいものの、学級の生徒の名前を憶えるなど、仲間を意識できるようになりつつある。
- ・数字を数えることが好きで、活動の内容に順番を付けると見通しがもてるようになる。
- ・平仮名を一文字ずつ読むことができるが、麻痺があるため書くことは難しい。

## 【活動目的】

・当初のねらい

- ・活動内容を理解できるように、授業の内容に番号をつけて分かりやすくする。
- ・見通しをもつことで、授業に集中し、自信をもって参加できるようにする。

・実施期間:平成28年5月～

・実施者:高見朋宏

・実施者と対象児の関係:担任

## 【活動内容と対象児の変化】

・対象児の事前の状況

対象生徒は、体幹が不安定であり、自分で身体を動かしてやりたい気持ちと、できないことへのギャップにイライラが募ってしまうことがある。睡眠時にてんかん発作がおきるため睡眠不足になり、日々体調が安定していない。その結果、活動に見通しがもてない状況になると、寝てしまうことがある。起きているときも自分で膝を叩いて刺激遊びをしたり、歌を歌ったりしながら自分の世界に入ってしまう、授業に気持ちを向けることが難しい。発達年齢が低く、まだまだ自己中心的な部分があり、外に目を向けることが難しい。しかし、クラスの生徒の名前を憶えるなど仲間を意識できるようになりつつある。数字を数えることが好きなため、活動を順番に提示すると受け入れることが多い。

・活動の具体的内容

対象生徒が授業に気持ちを向け、できたことを実感する経験を多く重ねることで、自信をもてるようになることを目的として、以下のような活動を進めていくこととした。

## 【活動1】

### ○学校間交流に向けてのあいさつ練習

学校間交流での代表あいさつを対象生徒が任された。そこで、生活単元学習の授業で、代表あいさつの練習をする際にカメラアプリを使用した。台詞のプリントを見て何度も練習後、ビデオ機能を使って録画し、再生した画面で自分の様子を振り返った。(写真1)前を向いて話すことや大きな声で話すことを教師と確認し、再度撮影して確認した。(写真2)

事前



写真1

前は見るものの、手を動かしている。  
台詞をあまり覚えておらず、教師の言葉を聞きながら話している。

事後



写真2

手を動かすことは少なくなり、自分で台詞を思い出しながら、前を向いて話している。

### ・事後の変化

交流当日は、手を動かすことなく、しっかりと前を向いて話すことができた。交流校の生徒と関わる時には、相手を見てあいさつをしたり、一緒にゲームを楽しんだりするなど、終始笑顔で交流することができた。放課後、迎えに来た保護者に「できたよ」と伝えるなど、達成感をもって取り組めた様子が伺えた。

## 【活動2】

### ○切符の買い方練習

校外学習に向けて、電車に乗る際、自分で券売機を操作して買うことができるように、keynote アプリを利用した。JR岐阜駅の券売機を模したスライドと、券売機を押す順番を示した手順書を用意して提示した。(写真3・4)手順書に順番をつけることで見通しをもって操作することができ、意欲的に取り組めた。



写真3 手順書を見ながらタップする順番を確認している様子。

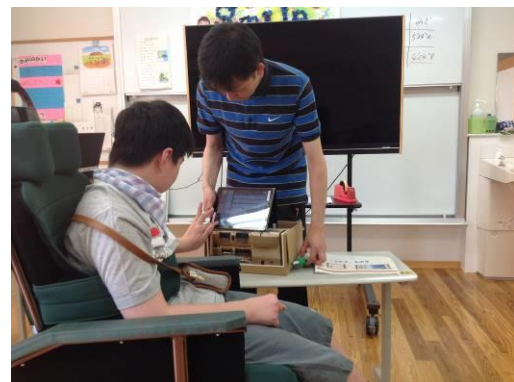


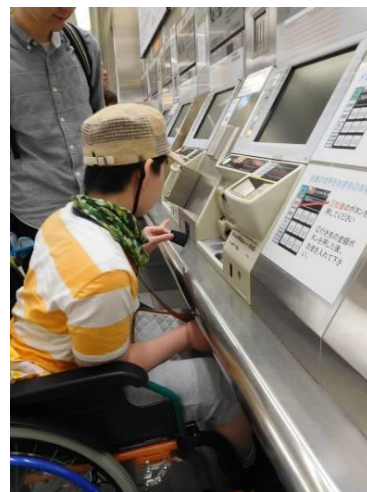
写真4 どのボタンを押すのかを確認しながら操作している。

## ・事後の変化

校外学習当日では、券売機の前で自分から手を伸ばし、「1番こども!」、「つぎは…」と言いながら券売機を操作して買うことができた。(写真5・6)

校外学習の振り返り時、写真を見て「買ったねえ」と画面を見ながら答えることができ、「1番こども」と押す順番を口ずさむなど、覚えたことを伝えることができた。授業中、自分の世界に入ることがあったものの、笑顔で授業に参加できた。

写真5・6 校外学習当日  
自分から手を伸ばして券売機を操作している様子。



## 【活動3】

### ○生活単元学習 調理活動(おにぎりを作ろう)

活動内容に見通しをもちながら主体的に参加できるように、powerpoint アプリを利用し、調理の工程を細分化したスライドを作成した。一つの工程ごとに短い動画を撮って貼り付けるとともに順番をつけて提示した。活動当日、自分でスライドをめくりながら動画を見る(音声を聞く)ことで、番号と内容を復唱して活動内容を理解し、必要なものを教員に伝えた。動画を何度か見返し、教師に聞くことなく自分でその工程を行うことができた。(写真7)その工程の活動が終わると「できた!」「つぎ!」と口ずさみ、自分からスライドをめくり次の活動を行うこともでき(写真8)、最後のスライドに入っている「かんせ〜い」の音声を聞いて復唱することで、完成したことを理解し、教師にできたことをアピールした。さらに「もうひとつやりたい」と教師に伝え、「これ」と言ってiPadを示し、最初のページに戻すことを要求し、iPadの動画(音声)を頼りに、何個もおにぎりを作り続けた。



写真7

「ごはんをいれま〜す」の声と動画を頼りに自分でご飯を入れている場面。



写真8

工程が終わると、自分でタップして次の内容を確認している。

#### ④ごはんをいれる



作成したスライドの一例。

画像をタップすると動画が再生。終了しても、再度確認したい時には、タップすることで、再生できるように設定した。



### ・事後の変化

上手に出来たことがうれしく、出来たおにぎりをみんなに渡したいことを教師に伝える。

→出来たことを認めてもらい、褒めてほしいという気持ちが出てきた。

関わりのある教師に配ることを伝えると、「〇〇先生に渡す！」と自分から言うことができ、渡す時に「食べて」とお願いした。(その場で食べてほしいことをお願いした)

「おいしいよ！ありがとう！」と言うと、笑顔で担任に「おいしいって」できたねえ」と伝えた。(写真9)

→他の人の評価を得ることで、できた実感をもつことが出てきた。

写真9



### 【活動4】

#### ○校外学習での記録

書字が難しい対象生徒が、校外学習での記録を残して振り返りができるように、omelet アプリを使用した。地域にある「長良川うかいミュージアム」を見学するときに、見学する順番に合わせて番号を付け、事前学習で説明して提示した。当日は、写真と同様の展示物を見つけると、「あった」と指さした。画面をタップして写真を撮り、1つ終わると「つぎ！〇番」と言って、用意した10個の課題に最後まで取り組めた。(写真9、10)



写真10 撮影の様子

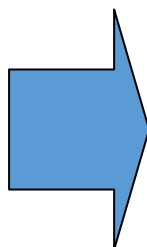


写真11

右：事前に用意した課題写真

左：生徒が撮影した写真

→課題を見ながら写真撮影が可能で、分かりやすい。

### ・事後の変化

振り返り時に大型 TV を用いて、答え合わせを行った。「できた」「いっしょ(の写真)」などと答え、教師の顔を伺った後、教師が正解と伝えると笑顔になった。また、教師が他の友達に「正解しているかな？」と聞き、「マル！」と生徒からも言われることで「マルだって！」と嬉しそうな顔をしていた。アプリのスタンプを付けると「おおきいの！」と話し、しっかりできたことを大きなマルで表して欲しいことを伝えた。(写真12・13)

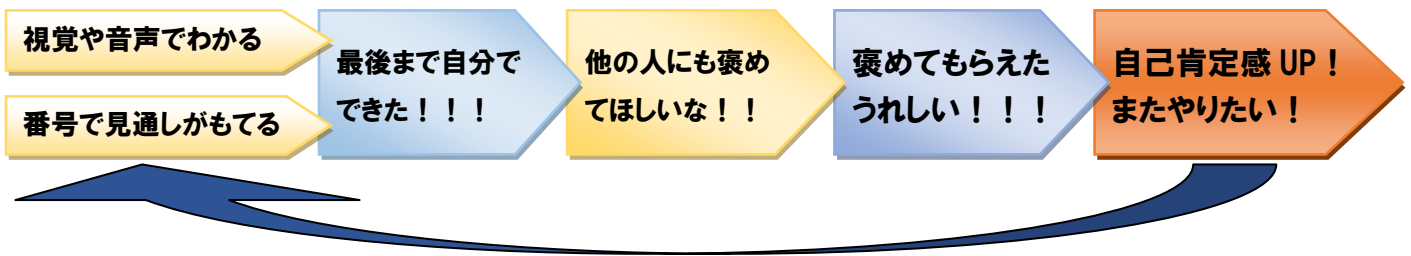


写真 12・13 振り返りの様子 他の生徒と一緒に、課題ができたことを確認し、目の前で評価される。

### 【報告者の気づきとエビデンス】

#### ・主観的気づき

生徒が活動に興味を示し、意欲的に活動できたのは、写真や音声で活動内容が理解し、活動に番号をつけることで見通しをもって取り組めたからではないか。自分で頑張ったことを実感し、他者からも褒められることで自信につながっているのではないか。



#### ・エビデンス

- 4、5月の授業では、授業内容によって車いすに浅く座り、背もたれに寄りかかりながら意図的に寝ようとする姿が見られた。そこで、iPadなどの情報機器を活用した授業を年間通して継続的に行ってきた。5月下旬頃より生徒から「次は何するの？」などの発言があり、授業に興味を示すことが増えてきた。
- 1学期には、「活動1・2・3」を行うことや、教員が生徒に合わせた支援を行うことで、授業中に寝ることが少なくなってきた。
- 夏休み以降、自分でやろうとする気持ちが強くなり、「ほくがやる!」「自分で!」などと発言することが増えてきた。自分で取り組み、納得ができると、関わりのある複数の教師に「(一人で)できたねえ」とアピールするようになってきた。
- 12月に学期のまとめで写真を見て振り返り、うかいミュージアムの写真を見ると、対象生徒が「赤いのつけたねえ」と発言した。教師が「写真にマルをつけたこと?」(活動4の取り組み)と聞くと「うん」、「できた」と言って笑顔になった。

昨年度に比べ、生徒が活動内容を理解し、やりたいという気持ちの表れが全体的に増えてきている。「やったねえ」「できた」という発言も多く、自己肯定感が芽生えてきていると考えている。今回のように、iPadなどの情報機器の有効的な利用が、より生徒の理解や意欲につながっており、有効的な手段の1つとして今後も利用していきたい。

・その他エピソード(画像などを含めて)

※チョコレート溶かしてクランチを混ぜる簡単なデザート作りを行ったときに、教師の資料を指して、「取って」と発言した。資料を渡すと、「見ながらやる!」「どこ?」と発言した。資料をもとに自分でやりたいようだったため、教師が「1番 袋を開ける…」などと番号と内容を横で伝え、復唱しながら自分でやろうとする姿が見られた。完成した時には、ひとつずつ指しながら「これはお母さん!(に渡す)」などと発言し、保護者に食べてほしい様子であった。そこで、授業参観日に同じ活動を行い、保護者にも参加してもらった。この時にも意欲的に取り組み、材料を小分けした時にはひとつずつ指さして、誰にどれを渡すのかを決めていた。(写真A)完成した時には保護者や教師に「どうぞ」と言って渡すことができ、目の前で食べてもらうとうれしそうな笑顔を見せて「また作ってあげる」と話した。このことから、本生徒が手掛かりをもとに自分で活動に取り組み、他者評価を受けることで自信につながっていると考えられる。



写真A 誰に渡すのかを決めている場面